



日本金銭機械株式会社 (証券コード:6418)

2016年3月期 決算説明会資料

2016年5月



世界最大級のゲーミング機器の展示会
(ICEショー)に出展
(2016年2月2～4日, ロンドン)



最新流通情報システム総合展「リテールテック
JAPAN 2016」に出展
(2016年3月8～11日, 東京ビックサイト)

目次

・2016年3月期 業績概要	… 2～ 6
・事業セグメント別業績推移	… 7～11
・2017年3月期 業績予想	…12～17
・2017年3月期における新たな事業展開	…18～20
・成長戦略テーマの進捗	…21, 22
・利益還元	…23
・中期経営計画(2015～17年度) の進捗	…24～26
・参考資料	
・貸借対照表	…27, 28
・キャッシュ・フロー	…29
・設備投資、減価償却費、研究開発費の推移	…30
・為替影響	…31
・国内遊技場市場関連 統計データ	…32
・海外のカジノ市場の状況	…33, 34
・国内カジノトピックス	…35

1

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

- ・2016年3月期 通期実績
- ・2017年3月期 通期予想
- ・中期経営計画の進捗

を中心に、ご説明いたします。

2016年3月期 業績概要

単位:百万円



	2015/3 実績	2016/3 実績	前期比		2016/3 計画	計画比		3月23日 業績修正
			率	増減額		率	増減額	
売上高	27,917	29,761	+6.6%	+1,844	31,200	-4.6%	-1,439	29,800
グローバルゲーミング	12,987	16,216	+24.9%	+3,229	15,250	+6.3%	+966	16,200
(内数)プリンター事業	(1,343)	(4,658)	-	(+3,315)	(4,300)	(+8.3%)	(+358)	(4,650)
海外コマーシャル	4,030	4,057	+0.7%	+27	4,450	-8.8%	-393	4,050
国内コマーシャル	2,596	1,919	-26.1%	-677	2,400	-20.0%	-481	1,950
遊技場向機器	8,302	7,567	-8.9%	-734	9,100	-16.8%	-1,533	7,600
営業利益	4.6% 1,285	5.0% 1,497	+16.5%	+212	6.1% 1,900	-21.2%	-403	4.7% 1,390
経常利益	7.8% 2,166	3.8% 1,142	-47.3%	-1,024	6.4% 2,000	-42.9%	-858	3.4% 1,020
親会社株主帰属 当期純利益	5.3% 1,486	1.2% 357	-75.9%	-1,128	4.5% 1,400	-74.5%	-1,043	1.1% 340

※プリンター事業：前期は9月～で4ヶ月のみ

平均為替レート

米ドル	106.46円	121.04円	+14.58円	120.00円	+1.04円	121.04円
ユーロ	140.33円	133.70円	-6.63円	140.00円	-6.30円	133.70円

〈前期比〉買収効果で増収・営業増益も、為替差損益の影響が大きく、最終減益に終わる

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

2

2016年3月期の業績は、

売上高は、国内事業では厳しい市場環境等を反映して減少しましたが、前期に買収いたしましたプリンター事業が通期で寄与し、前期比6.6%増の297億61百万円となりました。

利益面では、対米ドルのユーロ相場が大幅にユーロ安に進行したことによる欧州地域での収益力の低下はありましたが、プリンター事業による利益貢献により、営業利益は前期比16.5%増の14億97百万円となりました。

しかし、営業外損益と法人税等において、前期比での減益要因があり、当期純利益は75.9%減の3億57百万円となりました。

その内容については、次のページでご説明いたします。

2016年3月期 業績概要

単位:百万円



	2015/3 実績	2016/3 実績	前期比 増減	2016/3 計画	計画比 増減
営業利益	4.6% 1,285	5.0% 1,497	+0.4pt +212	6.1% 1,900	-1.1pt -403
営業外損益	881	-355	-1,236	100	-455
(主な項目) 為替差益	1,040	-398	-1,438	0	-398
買収関連費用	-201	—	201	—	—
経常利益	7.8% 2,166	3.8% 1,142	-4.0pt -1,024	6.4% 2,000	-2.6pt -858
特別損益	-284	-81	203	0	-81
(主な項目) 特別退職金	-198	—	198	—	—
厚生年金基金解散損失繰入	-67	—	67	—	—
固定資産除却/有証評価損	-20	-86	-66	—	-86
税引前利益	6.7% 1,881	3.6% 1,060	-3.1pt -820	6.4% 2,000	-2.8pt -940
(負担税率)	21.0%	66.2%		30.0%	
法人税等	394	702	308	600	102
親会社株主帰属 当期純利益	5.3% 1,486	1.2% 357	-4.1pt -1,129	4.5% 1,400	-3.3pt -1,043
期末日レート(米ドル)					
前期決算期末	102.91円	120.28円		120.28円	
	↓+17.37	↓- 7.59		↓- 0.28	
当期決算期末	120.28円	112.69円		120.00円	

2016.5.17

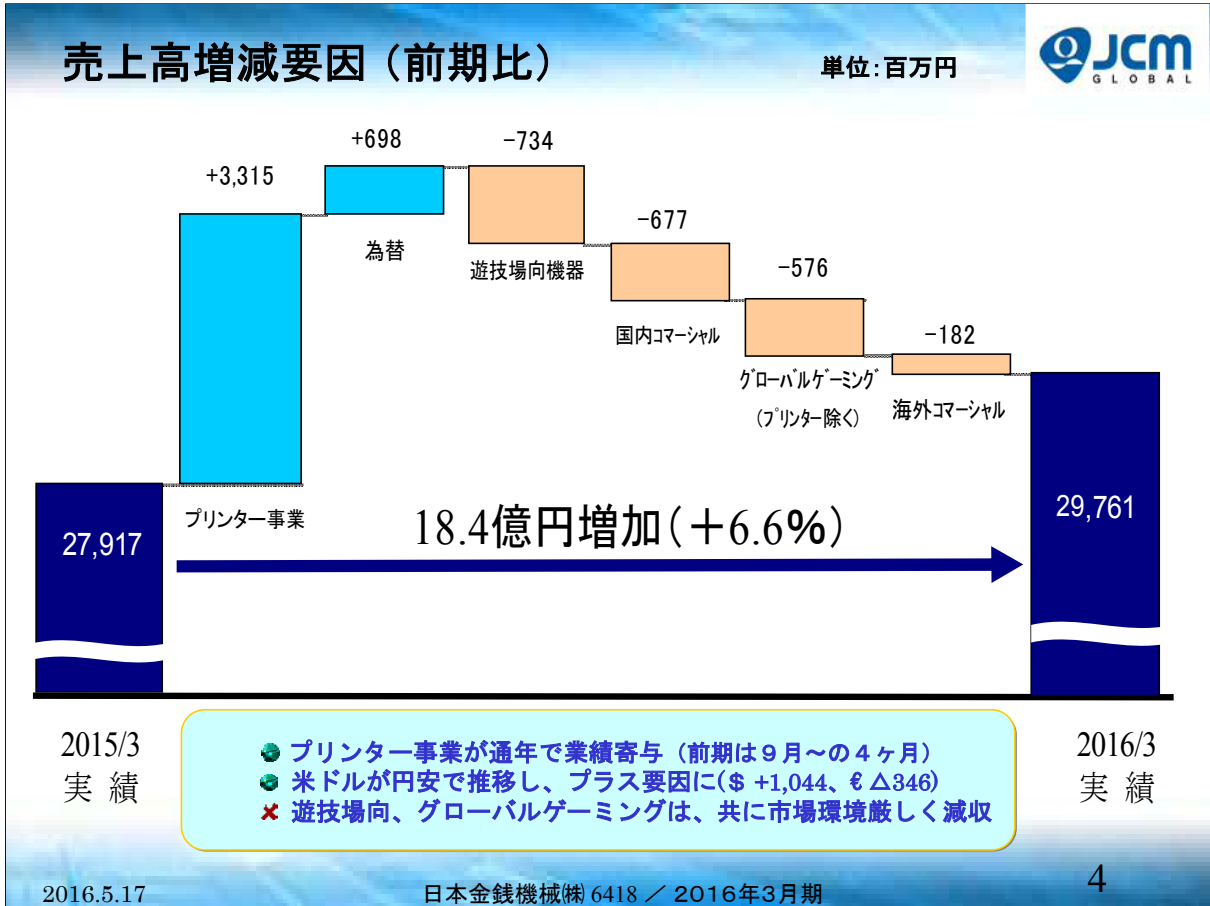
日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

3

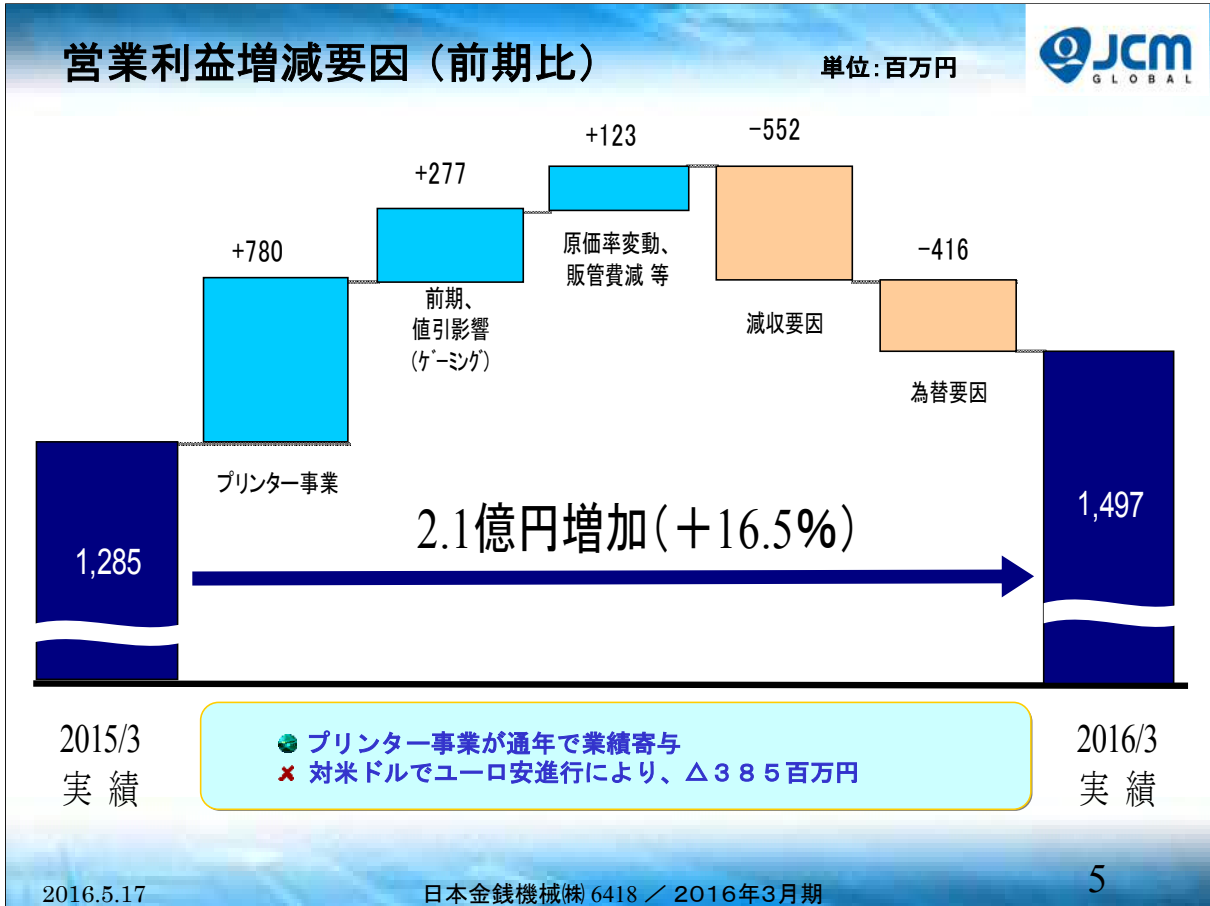
営業利益以降の内容について、ご説明いたします。

外貨建資産・負債を決算期末日のレートにより時価評価換算し、その影響額を営業外損益として計上しておりますが、円安の進行により為替差益を10億40百万円計上した前期から一転して、当期は円高の進行により、約4億円の差損を計上することとなり、経常利益は前期比47.3%減の11億42百万円となりました。

また、法人税等では、国内の遊技場向事業を展開している連結子会社2社において、最近の業績及び今後の業績動向を踏まえて、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、その一部を取り崩すこととした事、そして米国子会社では前期は課税所得が赤字でありましたが、当期はプリンター事業による利益計上で税額が約4億円増加したことから、減益要因となりました。



前期比での売上高の主な増減要因は、厳しい市場環境の影響もあり、従来からの事業セグメントでは減収となりましたが、プリンター事業の業績貢献や前期より米ドルが円安であったことがプラスの要因となっております。



前期比での営業利益の主な増減要因は、利益面でもプリンター事業が大きく寄与しましたが、減収とともに、当期において大幅にユーロ安が進行したことで、仕入を米ドル建を原則としている欧州事業における収益力が大きく低下いたしました。

2016年3月期 業績概要（区分別）

単位:百万円



	2015/3 実績			2016/3 実績			前期比 増減	
	合計	従来事業	プリンター事業	合計	従来事業	プリンター事業	従来事業	プリンター事業
売上高	27,917	26,574	1,343	29,761	25,103	4,658	-1,471	3,315
	37.1%	36.5%	49.8%	39.5%	37.5%	50.2%	+1.0pt	+0.4pt
売上総利益	10,371	9,702	669	11,753	9,414	2,339	-288	1,670
販管費	9,086	8,443	643	10,255	8,722	1,533	280	890
営業利益	4.6%	4.7%	1.9%	5.0%	2.8%	17.3%	-1.9pt	+15.4pt
営業外損益	1,285	1,259	26	1,497	691	806	-568	780
	881	1,156	-275	-355	-246	-109	-1,402	166
経常利益	7.8%	9.1%	—	3.8%	1.8%	15.0%	-7.3pt	—
	2,166	2,415	-249	1,142	445	697	-1,970	946
特別損益	-284	※営業外		-81			※販管費	
税引前利益	1,881	為替差益	買収関連費用	1,060	為替差益	リース解約損	為替影響	
法人税等	394	+1,040	△ 202	702	△ 398	△ 45	+317	
親会社株主帰属	5.3%		支払利息	1.2%		支払利息	実発生	
当期純利益	1,486		△ 53	357		△ 37	△ 37	

プリンター事業は順調に推移し、買収効果が業績に大きく貢献

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

6

業績を「従来事業」と「プリンター事業」とに区分し、前期比で表示しております。

「従来事業」については、2ページでも申し上げましたように国内事業において、景況感の不透明さや設備投資意欲の低迷等の厳しい事業環境を反映して、総じて需要が低調であったことや、対米ドルでのユーロ安による収益環境への影響もあり、前期比では『減収・営業減益』となりました。

一方、「プリンター事業」は前期は4ヶ月のみの計上であり、かつ買収関連の一時的な費用の計上もありましたが、当期は通年での業績寄与であるとともに、順調に推移していることもあり、業績に大きく貢献しております。

事業セグメント別業績推移



単位:百万円

	売上高			営業利益		
	2015/3 実績	2016/3 実績	2016/3 計画	2015/3 実績	2016/3 実績	2016/3 計画
グローバルゲーミング	12,987	16,216	15,250	12.0%	15.8%	17.0%
海外コマース	4,030	4,057	4,450	29.7%	18.3%	18.0%
国内コマース	2,596	1,919	2,400	10.4%	-0.3%	7.9%
遊技場向機器	8,302	7,567	9,100	0.3%	0.1%	1.2%
調整額	—	—	—	△ 1,768	△ 1,809	△ 1,800
連結	27,917	29,761	31,200	4.6%	5.0%	6.1%
海外売上高	61.0%	68.1%	63.1%	17,016	20,270	19,700

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

7

セグメント別の業績を表示しております。

海外事業は、欧州地域でのユーロ安が減益要因となっておりますが、「グローバルゲーミング」は、収益性の高いプリンター事業の寄与もあり、前期を上回った利益率になっております。

国内事業は、販売減少の影響もあり、収益性が低下しております。

事業セグメント別業績推移

グローバルゲーミング



区分		2015/3 実績	2016/3 実績	2016/3 計画	比較増減			
					前期比	計画比	前期比	計画比
北米・中南米	外貨(千米\$)	51,119	42,861	41,600	-16.2%	-8,258	+3.0%	+1,261
	邦貨(百万円)	5,442	5,188	4,990		-254		+198
アジア・ パシフィック	外貨(千米\$)	9,150	8,823	9,400	-3.6%	-327	-6.1%	-577
	邦貨(百万円)	974	1,068	1,130		+94		-62
欧州・アフリカ ・中近東	外貨(千€)	37,250	39,658	34,500	+6.5%	+2,408	+15.0%	+5,158
	邦貨(百万円)	5,227	5,302	4,830		+75		+472
プリンター事業	外貨(千米\$)	11,741	38,487	36,000	-	+26,746	+6.9%	+2,487
	邦貨(百万円)	1,343	4,658	4,300		+3,315		+358
計	売上高(百万円)	12,987	16,216	15,250	+24.9%	+3,229	+6.3%	+966
平均為替レート	米ドル	106.46円	121.04円	120.00円		+14.58円		+1.04円
	ユーロ	140.33円	133.70円	140.00円		-6.63円		-6.30円

【2016/3総括】

- ・北米・中南米 OEM向は前期実績、計画並に推移したものの、旧タイプからのリプレースが需要一巡により、低調な推移に留まる(前期比 Δ 7.3m\$)。
- ・アジアパシフィック 豪は前期実績及び計画並で推移する(7m\$)が、アジアで減収
- ・欧州 懸念していた他社新製品上市による影響も少なく、前期比、計画比で増収
- ・プリンター 計画を上回り、順調に推移 (FY14) 4Q 8.6(FY15)1Q 8.7、2Q 9.8、3Q 9.8、4Q 10.2m\$

〈前期比〉 北米事業で減収も、プリンター事業が通年寄与により、増収
 〈計画比〉 アジア以外は計画を上回って着地

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

8

事業セグメント別業績推移

海外コマース



区分		2015/3 実績	2016/3 実績	2016/3 計画	比較増減			
					前期比	計画比		
北米・中南米	外貨 (千米\$)	13,853	15,223	15,340	+ 9.9%	+1,370	- 0.8%	-117
	邦貨 (百万円)	1,475	1,843	1,840		+368		+ 3
アジア・ パシフィック	外貨 (千米\$)	3,306	4,693	4,500	+42.0%	+1,387	+ 4.3%	+193
	邦貨 (百万円)	352	568	540		+216		+28
欧州・アフリカ ・中近東	外貨 (千€)	15,706	12,320	14,800	-21.6%	-3,386	-16.8%	-2,480
	邦貨 (百万円)	2,204	1,647	2,070		-557		-423
計	売上高 (百万円)	4,030	4,057	4,450	+ 0.7%	+ 27	- 8.8%	-393
平均為替レート	米ドル	106.46円	121.04円	120.00円		+14.58円		+ 1.04円
	ユーロ	140.33円	133.70円	140.00円		- 6.63円		- 6.30円

【2016/3総括】

- ・北米・中南米 当期は金融OEM向販売が計画どおりに推移
- ・アジアパシフィック インドの鉄道向スタートにより、前期比で増収
- ・欧州 イタリア市場向の需要が堅調に推移するが、ロシア・CIS市場向が低調に終わり、前期比、計画比でともに減収

〈前期比〉北米(金融向)・アジア(インド市場向)で増収になるも、欧州でのロシア市場向が政治・経済的な要因もあり、低調な推移に留まる
 〈計画比〉北米・アジアでは計画並で推移するも、欧州の上記要因により減収

事業セグメント別業績推移

国内コマース



単位:百万円

	2015/3 実績	2016/3 実績	2016/3 計画	比較増減	
				前期比	計画比
国内金融流通	2,596	1,919	2,400	-26.1% -677	-20.0% -481

【2016/3総括】

前期好調に推移したコンビニATM向、釣銭機ユニットの大口個別需要が一巡したことにより、前期比で減収。また、両製品に加えて、新製品の立ち上がりの遅れもあり、計画比でも減収。

コンビニATM向	627	128	290	△ 499	△ 162
釣銭機	301	51	358	△ 250	△ 307

前期比、計画比で2ケタの減収

事業セグメント別業績推移

遊技場向機器



単位:百万円

区 分	2015/3 実績	2016/3 実績	2016/3 計画	比 較 増 減	
				前 期 比	計 画 比
遊技場向機器	7,712	6,998	8,465	-9.3%	-17.3%
アミューズメント	590	569	635	-3.6%	-10.4%
計	8,302	7,567	9,100	-8.9%	-16.9%

(補足) アミューズメント事業 …… ゲームセンターの運営(上野店(台東区)、川崎店(川崎市))

【2016/3総括】

パチンコ、パチスロ遊技台に対する規制強化や遊技くぎ問題など遊技業界を取り巻く事業環境が不透明感を強めるなか、パチンコホールが投資意欲を減退させた影響を受け、低調に推移

市場環境の影響もあり、前期比、計画比で減収



2017年3月期 業績予想

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

12

2017年3月期の業績予想について、次ページ以降でご説明いたします。

2017年3月期 前提とする市場環境等



グローバル ゲーミング		・北米市場では需要の回復に力強さを欠く一方で、欧州市場では、 ゲーム機メーカーの在庫調整の一巡により、需要は好調に推移する予想
海外 コマーシャル		・北米市場では金融向がやや低調、欧州市場での需要は堅調と予想 ・新興国市場を中心に堅調な需要に期待
国内 コマーシャル		・当市場に関連する設備投資需要は不透明 ・外貨両替機の販路拡大に期待
遊技場向 機器		・遊技くぎ問題への対応、新基準機の動向などホールを取り巻く課題 は山積の状態、設備投資の抑制傾向が続くと予想 ・シルバー電研からの譲受事業とのシナジー効果を訴求

前期に続いて、北米ゲーミング、遊技場向は厳しい市場環境を想定

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

13

2017年3月期で想定しているセグメント別の事業環境と取組みについてまとめております。

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、北米ゲーミング市場や国内遊技場向機器市場においては、設備投資に対する慎重な姿勢が鮮明となりつつあり、市場規模の縮小を受けて熾烈な価格競争が進むなど、利益の確保に向けて厳しい状況が続くものと想定しております。

以上の状況を踏まえ、海外ゲーミング市場でのプリンター事業、国内遊技場向機器市場では後述いたします本年7月1日を期日としているシルバー電研からの譲受事業とのシナジー効果を追求し、製品ラインナップの拡充を武器に収益基盤の拡大を図り、両市場において安定的なシェアの維持・確保に努めてまいります。

またコマーシャル市場においては、前期にスタートしたグローバルコマーシャル本部を中心に新規市場の開拓と需要の創出を進め、早期に新たな収益の柱として成長させられるように取り組んでまいります。

2017年3月期 業績予想

単位:百万円



	2016/3月期 実績	2017/3月期 予想	前期比	
			率	増減
売上高	29,761	30,000	+ 0.8%	+ 238
グローバルゲーミング	16,216	15,450	- 4.7%	- 766
(内数) プリンター事業	(4,658)	(4,150)	(-10.9%)	(-508)
海外コマース	4,057	3,450	-15.0%	-607
国内コマース	1,919	2,250	+17.2%	+331
遊技場向機器	7,567	8,850	+17.0%	+1,283
営業利益	5.0% 1,497	5.0% 1,500	+ 0.2%	+ 2
経常利益	3.8% 1,142	5.0% 1,500	+31.3%	357
当期純利益	1.2% 357	3.0% 900	+151%	542

期中平均レート(円)

米ドル	121.04	110	-11.04
ユーロ	133.70	125	- 8.70
ROE	1.2%	3.0%	-1.8%

売上高、営業利益はほぼ前期並み

2016.5.17

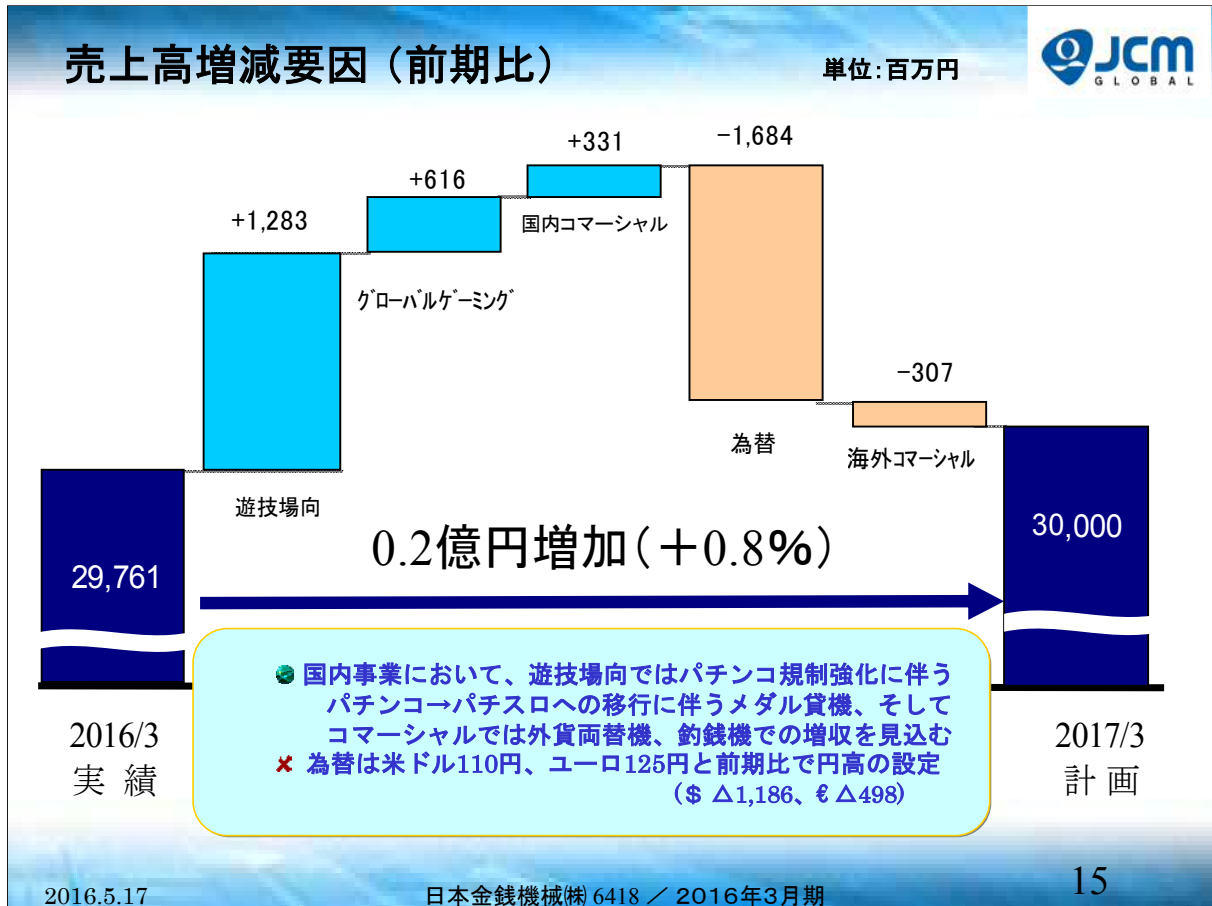
日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

14

進行年度の業績予想は、

売上高は、前期比0.8%増の300億円、営業利益も前期比0.2%増の15億円とほぼ横ばいといたしました。

尚、資料の予想値には、3月30日に発表いたしました譲受事業による影響額は反映しておりませんので、本年7月1日の実行予定日以降に改めて開示をする予定です。

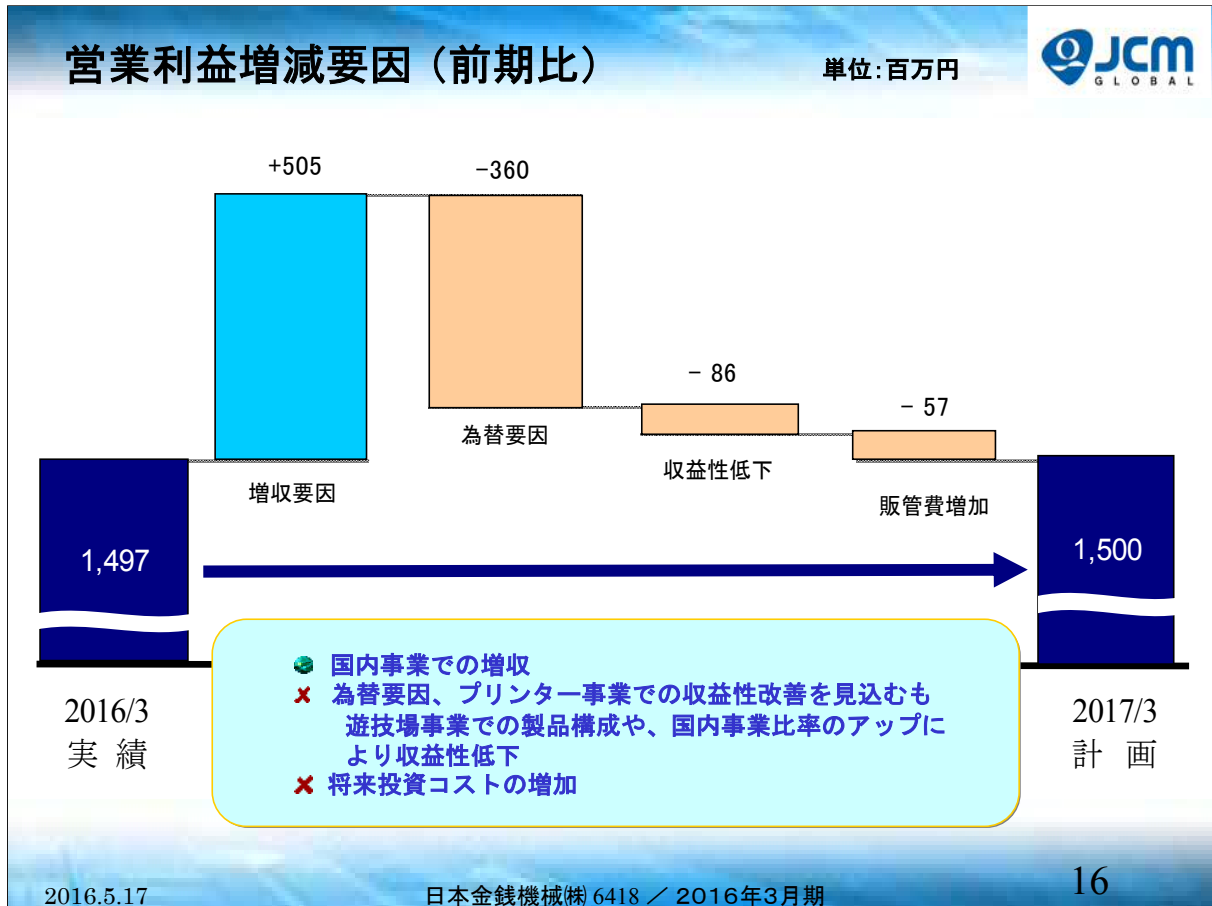


前期比での売上高の主な増減要因を示しております。

国内事業では、遊技場向機器事業の市場環境に関しては厳しい見込みをしておりますが、パチンコ遊技機の規制問題の関係でパチスロの比重が高まり、パチンコからパチスロへの入替え需要が増加するという見通しをしており、特にメダル貸機の増収を計画しております。

また、国内コマースでは、外貨両替機や釣銭機の拡販を計画しております。

しかし、進行年度の為替レートを米ドル110円、ユーロ125円と設定しましたが、前期比で米ドルで11円、ユーロで約9円の円高となるため、為替要因で約17億円の減収要因となっております。



前期比での営業利益の主な増減要因を示しております。

国内事業での増収をプラス要因と見ておりますが、為替による要因、また、プリンター事業での収益性の改善を見込むものの、遊技場向事業での製品構成などにより、収益性が低下するものと想定しております。

また、販管費では、将来投資コストの増加が減益要因になっております。

市場環境が不透明ななか、営業増益を達成する為に、一般管理費の増加を抑制しつつ、為替相場の変動による業績への影響の低減、市場品質の改善・向上に努めることにより、収益性の向上を目指してまいります。

2017年3月期 業績予想(セグメント別)

単位:百万円



	売上高			営業利益		
	2015/3 実績	2016/3 実績	2017/3 計画	2015/3 実績	2016/3 実績	2017/3 計画
グローバルゲーミング	12,987	16,216	15,450	12.0%	15.8%	17.2%
(内数)プリンター事業	(1,343)	(4,658)	(4,150)	1.9%	17.3%	24.1%
海外コマーシャル	4,030	4,057	3,450	29.7%	18.3%	10.1%
国内コマーシャル	2,596	1,919	2,250	10.4%	-0.3%	8.4%
遊技場向機器	8,302	7,567	8,850	0.3%	0.1%	1.7%
調整額	—	—	—	△ 1,768	△ 1,809	△ 1,840
連 結	27,917	29,761	30,000	4.6%	5.0%	5.0%
海外売上高	61.0%	68.1%	63.0%	17,016	20,270	18,900

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

17

セグメント別の業績予想を表示しております。

「グローバルゲーミング」では、プリンター事業において更なる収益改善が見込まれることもあり、利益率が向上する予想をしております。

「海外コマーシャル」では、減収要因のほかに、当事業の拡充・強化、また新規市場の開拓に向けて、人員を増強し、取組みを開始したことにより、研究開発費などの将来投資コスト約1億円を計上していることも減益の要因になっております。

2017年3月期における新たな事業展開



再び、'成長軌道'を描くための新たな施策

◇シルバー電研からの譲受事業の展開

遊技場向機器

製品ラインナップ及び顧客基盤の拡大を図り、市場規模の縮小が続くパチンコ・パチスロ市場における事業強化を図る

◇東南アジア市場開拓に向けた現地企業との販売提携

海外コマース

東南アジア地域におけるコマース事業の拡充・強化に向けて、タイ国において、現地企業と協業

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

18

新年度における新たな取組みとしては、資料に記載しております2つの項目が挙げられます。

両項目ともに、新年度の業績を大きく伸長させるまでには至らないと考えておりますが、次年度以降に成長させるべく、取り組んでまいります。

シルバー電研からの譲受事業の展開

遊技場向機器



◇目的

市場規模の縮小が続くパチンコ・パチスロ市場における事業強化の一環として、遊技場向機器事業における製品ラインナップ及び顧客基盤の拡大を図り、売上高の増加を目指すと共に、コスト削減・合理化を進めることで、技術開発力の強化、収益力の改善を図る。

◇譲受事業の内容

遊技業界の健全化を図るため、データ改ざん防止装置を組み込んだセキュリティ技術による売上管理システム(iクリアシステム)に関する製品群、遊技料金の紙幣の取り込みと回収の効率化が可能な紙幣搬送機器

※ iクリアシステムとは、データ改ざん防止装置を搭載した玉貸機やメダル貸機での売上情報に暗号化の処理が施されて、データ管理センターに送信・蓄積・保管することで、売上データの透明性を確保できるシステム。契約店舗は約1,000店で、弊社約100店に対して、S社は約400店。

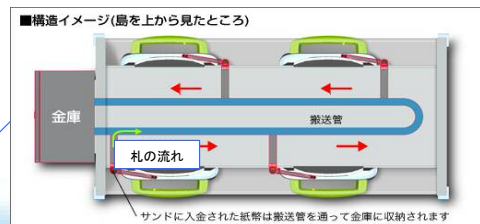
メダル貸機・玉貸機



液晶付きユニットで
弊社製品より技術で
先行している

弊社が保有していない製品

紙幣搬送システム



2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

19

3月30日にリリースいたしました『シルバー電研からの譲受け事業』について、ご説明いたします。

市場規模の縮小が続く遊技場向事業の強化の一環として、製品ラインナップと顧客基盤の拡大を図ることを目的に、事業を譲り受けることといたしました。

対象とする事業の主な内容としては、データ改ざん防止装置を組み込んだセキュリティ技術による売上管理システム、通称iクリアシステムに関する製品と紙幣搬送システムであります。

今回の譲受により、同システム導入店舗約400店を引き継げることによる顧客基盤の拡大と当社が保有していない紙幣搬送システムを取り入れることとなります。

尚、本事業の譲り受けについては、7月1日の実行予定日に向けて、現在、最終調整を行っておりますので、進行年度での見通しや譲受価額等については、確定次第、お知らせする予定です。

東南アジア市場開拓に向けた現地企業との販売提携

海外コマーシャル



◇主旨・目的

相互のリソースを最大限かつ効率的に活用し、幅広く協働することにより、ASEAN地域において事業を拡大することを目的として、現地の独立資本企業を当地域においてのマスターディストリビューターとして認定し、タイを中心とした周辺諸国への販売強化、同地域におけるサポートセンターの設置、人材交流を行う。

◇提携先企業の事業概要

同社はECR/POSの販売を目的に1994年に設立、当初から弊社との取引が継続している。2015年度の売上高は、約4億円。

◇タイ市場について

タイ国大手携帯電話での料金支払キオスク端末の一斉導入が始まるなど、今後ますます成長が見込まれる市場である。また、取引している現地企業の親会社には財閥企業も数含まれており、近隣諸国へ今後進出する際にも有利に働くと考えている。あわせて、同市場へは、飲食を中心とした日系のサービス業が目覚ましい勢いで進出しているが、同社独自では接触が難しいものの、弊社とともにアプローチすることで、販路拡大を進めていく。

〈現在までの主要なプロジェクト〉

携帯料金チャージ機、公共料金他、各種支払キオスク

〈現在引き合いのあるプロジェクト〉

自動販売機、簡易ATM、納金機、釣銭機、セルフチェックアウト、送金機、両替機

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

20

『海外コマーシャル』の中期戦略テーマとして取り組んでおります
「東南アジア市場の開拓」に向けた案件です。

タイ国において、同国及び周辺諸国への販売強化に向けて、現地の独立資本企業との販売提携に本年1月に合意し、同月より業務を開始いたしました。

タイ国及び周辺諸国市場は、今後の高い経済成長が期待されており、社会インフラの整備も進んでいくことが予想されます。これらの需要を取り込んでいく為に、同社との人材面、技術面等で関係強化を図り、事業展開を速やかに進めてまいります。

成長戦略テーマの進捗

国内コマース



◇導入の状況

金融機関、交通機関、商業施設、宿泊施設、観光地などを中心として販売活動を強化。主な施設としては、下記で運用を開始しております。

- ・空港 : 成田、関西、富士山静岡、旭川
- ・商業施設 : コンビニエンスストア、大型ショッピングビル
- ・宿泊施設 : 大手ホテルチェーン店
- ・観光地 : 伏見稲荷神社、嵐山、清水寺(京都)、道頓堀(大阪)での土産物販売店

成田空港



ホテル



関空



2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

21

成長戦略テーマの進捗

グローバルゲーミング



Ticket2Go (チケット ツー ゴー)

◇導入の状況

当製品は、今まで販売されていなかった欧州AWP向けのチケットインチケットアウト(TITO)・システム新製品として、昨年度より、英国の主要なアーケード3社向けに販売開始。既に約2,300台が導入され、順調に稼動中。進行年度では、スペインでも設置がスタートし、導入加速に期待。



TableXchange Plus (テーブルエクスチェンジ プラス)

◇進行状況

紙幣量の少ないテーブルゲーム向けのシステムとして、TITOとも連動した製品として完成。今年2月にロンドンで開催された欧州最大のゲーミングショーにて展示。

プリンター

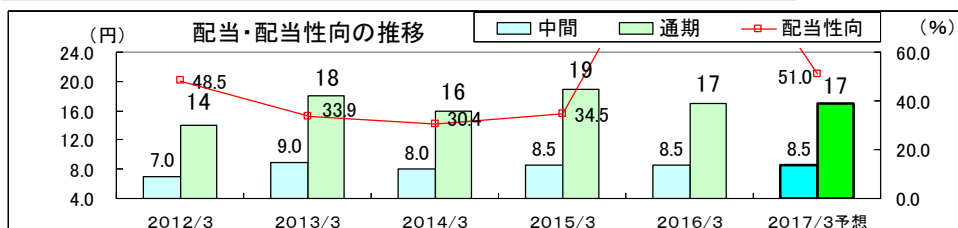


識別機

利益還元



2017年3月期は、年間普通配当17円を予定



※2013/3には株式上場20周年、2015/3には創立60周年の記念配当をそれぞれ2円含む

1株当たり利益推移 (円) 28.9 53.1 52.6 55.1 13.3 33.4

配当性向推移 (%) 48.5 33.9 30.4 34.5 128.1 51.0

純資産配当率 (%) 1.7 1.7 1.7 1.8 1.6 1.6

《業績連動型株主還元を継続》

・配当性向(連結) 30%以上 ・純資産配当率 2.0%以上 を目指す

連結業績および配当性向を総合的に勘案しながら、
長期安定的に配当水準の継続的向上に取り組む。

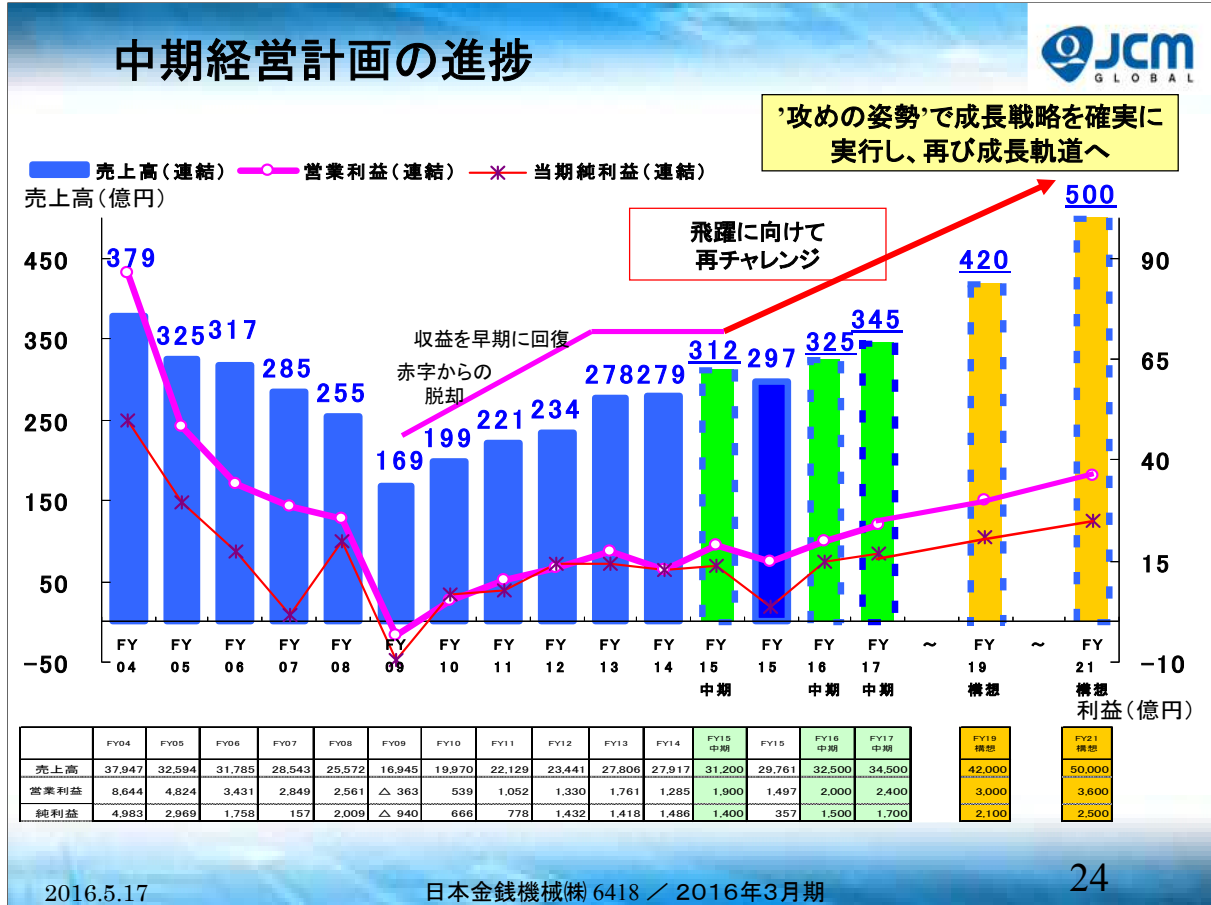
2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

23

利益還元については、前期は減益となりましたが、年間配当17円とさせていただきます。

進行年度も、当社グループの利益還元方針である連結配当性向30%を超えているものの、安定的な配当の実施、及び連結純資産配当率を勘案して、年間普通配当17円を予定しております。



2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

24

中期経営計画の進捗について、ご説明いたします。

弊社は昨年5月に2018年3月期を最終年度とする「中期経営計画」を発表し、「持続的な成長」に向けて新たなチャレンジをスタートいたしました。しかしながら、冒頭でご説明いたしましたように、経営環境の変化を受けて、初年度である2015年度は、残念ながら目標とする売上高、利益を下回る結果となりました。

取り巻く経営環境の変化に対する速やかな対応という点においては、課題があったかとも思いますが、次ページに挙げているような成長戦略についても実績として数値化できるには時間を要することも事実でございます。

既に業績に大きく貢献しているプリンター事業買収のように、将来の成長に向けた取組みを、引き続き着実に実行してまいります。

中期計画で掲げた戦略の方向性は変えずに推進してまいります。中期最終年度である2018年3月期の目標数値については、現状を踏まえて、見直しをする必要があると思っております。

中期経営計画の進捗(2016年3月期の振り返り)



成果

- プリンター事業の欧州地域への展開加速
- 中期戦略テーマの推進
 - ・未開拓市場(インド・ロシア)への展開
 - ・外貨両替機の市場投入
 - ・東南アジア市場でのアライアンスの締結
 - ・M&Aの推進(シルバー電研譲受案件)

課題

- 新製品・新規事業のスピードアップ
- 遊技場向機器事業の収益性改善

中期経営計画の進捗

単位:百万円



	2016/3月期	2017/3月期	中期経営計画		
	実績	計画	2016/3月期	2017/3月期	2018/3月期
売上高	29,761	30,000	31,200	32,500	34,500
(率)	5.0%	5.0%	6.1%	6.2%	7.0%
営業利益	1,497	1,500	1,900	2,000	2,400
(率)	1.2%	3.0%	4.5%	4.6%	4.9%
当期純利益	357	900	1,400	1,500	1,700
グローバルゲーミング	16,216	15,450	15,250	16,280	17,370
海外コマース	4,057	3,450	4,450	4,620	5,030
国内コマース	1,919	2,250	2,400	2,600	2,700
遊技場向機器	7,567	8,850	9,100	9,000	9,400
ROE (%)	1.3	3.0	4.8	5.0	5.5
期中レート(米ドル/円)	121.04	110.00	120.00		
〃 (ユーロ/円)	133.70	125.00	140.00		

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

26

不透明な為替動向、低調な設備投資動向などの市場環境を慎重に精査するとともに、7月1日に事業の譲り受けを予定しております国内遊技場向機器事業の事業計画を中心に、現在見直しを進めており、実行後に改めて開示を行う予定です。

参考資料

貸借対照表

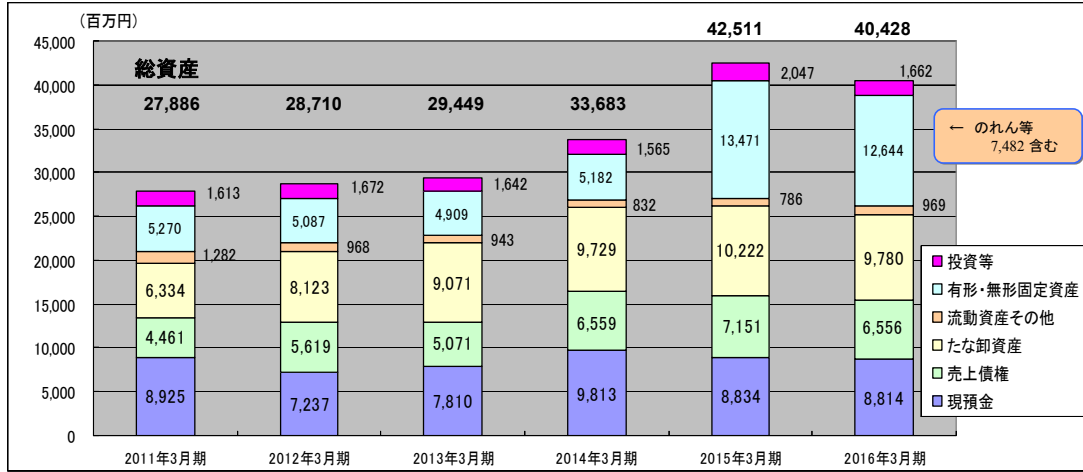
単位:百万円



資産の部 : Δ20億83百万円

流動資産 Δ871 : 「売上債権」の回収が進み(Δ594)、欧州地域における需要増を見込んで前期末に増加していた在庫の消化(Δ398)

固定資産 Δ1,211:償却 825、株式売却等 Δ149



期末日レート	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
米ドル	83.15	82.19	94.06	102.91	120.28	112.69
ユーロ	117.57	109.81	120.77	141.60	130.38	127.68

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

2016年3月末時点の資産は、前期末と比較して、20億83百万円減少して、404億28百万円となりました。

主な減少の内容としては、下記のとおり。

- 「売上債権」 Δ5億94百万円
- 「たな卸資産」 Δ4億42百万円
- 「有形固定資産」 Δ2億74百万円
- 「無形固定資産」 Δ5億51百万円
- 「投資等」 Δ3億84百万円

参考資料

貸借対照表

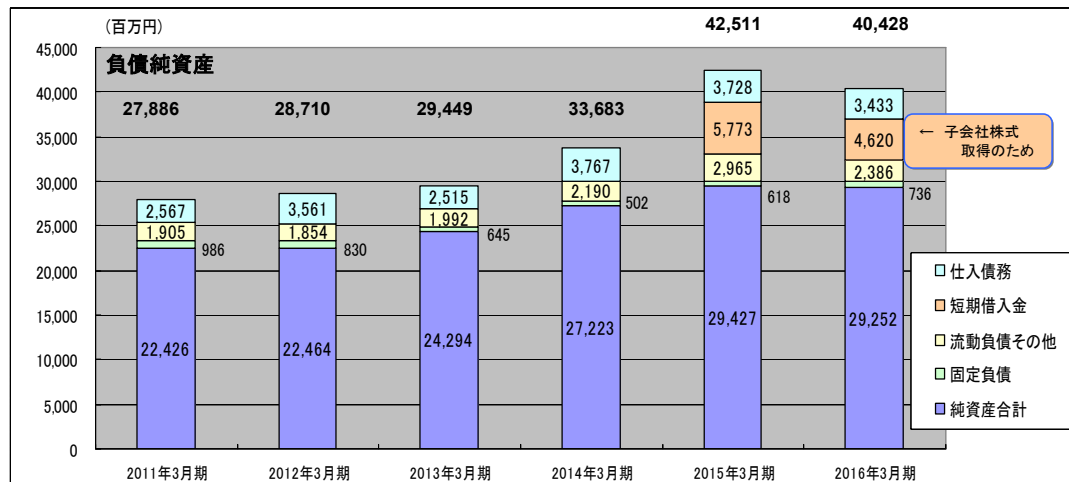
単位:百万円



負債: △19億7百万円

流動資産 △2,025 : 「短期借入金」の一部返済(△1,153)、仕入債務(△294)

純資産: △1億75百万円: 利益計上 357、配当支払 510



自己資本比率(%)

80.4

78.2

82.5

80.8

69.2

72.3

1株当たり純資産(円)

831.19

832.63

900.46

1,009.07

1,090.80

1,084.29

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

28

負債は、前期末と比較して、19億7百万円減少して、111億76百万円となりました。

主な減少の内容としては、下記のとおり。

「短期借入金」 11億53百万円

「仕入債務」 2億94百万円

純資産は、純利益計上3億57百万円に対して、配当支払5億10百万円で、剰余金が1億55百万円減少したこと等から、合計で1億75百万円減少し、292億52百万円となりました。

尚、自己資本比率は72.3%と前期末と比べて3.1%増加しました。

- ・営業CF : 税金等調整前純利益 1,060、償却費 1,258
 運転資本(売上債権・仕入債務・在庫)の増減 613
- ・投資CF : 有形固定資産取得 286、投資有価証券取得 100、
 長期貸付金回収 82
- ・財務CF : 借入金返済 795、配当金支払 510

	'11/3月期	'12/3月期	'13/3月期	'14/3月期	'15/3月期	'16/3月期
営業活動によるCF	△ 1,024	△ 729	918	2,098	1,801	1,758
投資活動によるCF	△ 1,345	△ 535	△ 166	△ 545	△ 6,991	△ 242
財務活動によるCF	△ 111	△ 317	△ 537	△ 626	5,181	△ 1,414
現金及び同等物に係る換算差額	△ 561	△ 57	259	579	334	△ 121
現金及び同等物の増加額	△ 3,042	△ 1,641	474	1,506	325	△ 19
現金等期末残高	8,150	6,508	6,982	8,488	8,814	8,794
フリー・キャッシュ・フロー	△ 2,369	△ 1,264	752	1,553	△ 5,190	1,516

2016.5.17

日本金銭機械(株) 6418 / 2016年3月期

29

キャッシュ・フローの主な増減内容は、下記のとおりです。

◇営業活動CF 17億58百万円

- ・主な増加要因は、税金等調整前当期純利益 10億60百万円、
 減価償却費 12億58百万円、
 運転資本(売上債権・仕入債務・在庫)の減少
 6億13百万円

- ・主な減少要因は、
 法人税支払 5億66百万円

◇投資活動CF △ 2億42百万円

- ・主な増加要因は、長期貸付金回収 82百万円
- ・主な減少要因は、有形固定資産の取得 2億86百万円、
 投資有価証券の取得 1億00百万円

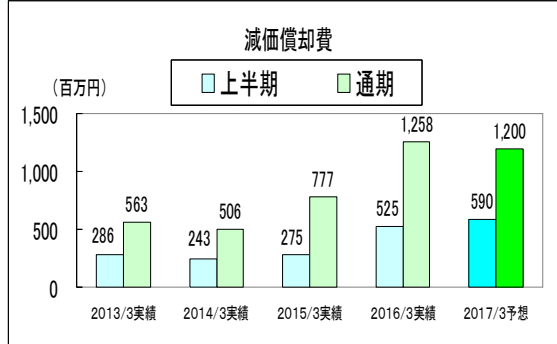
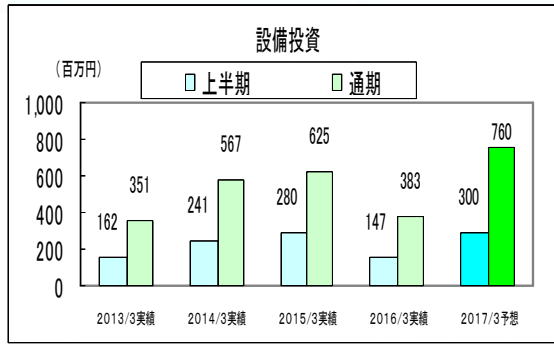
◇財務活動CF △ 14億14百万円

- ・借入金返済 7億95百万円、配当金支払 5億10百万円

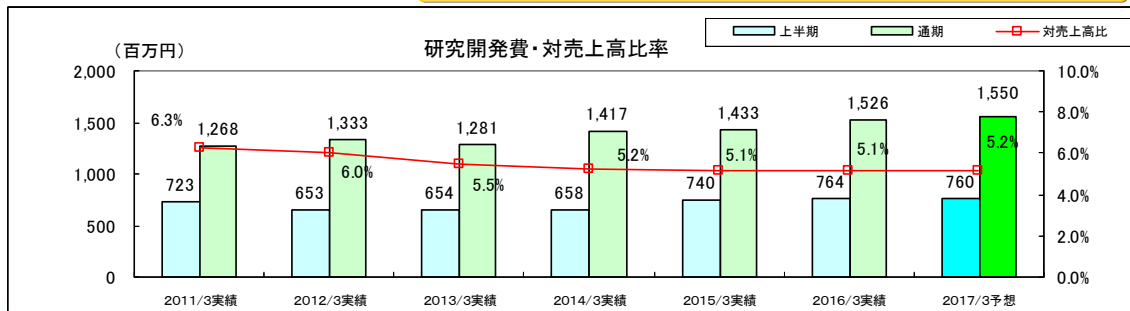
◇現金同等物の換算差額 △1億21百万円

参考資料

設備投資額・減価償却費・研究開発費の推移



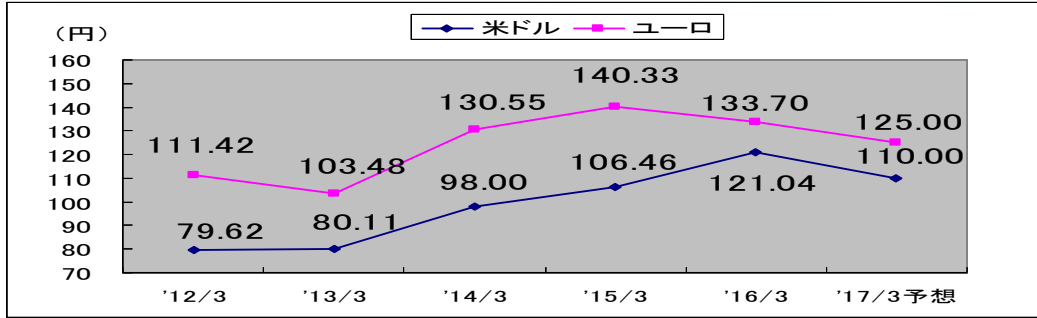
のれん相当償却費(内数) ※ [] 内は上半期 200 [325] 649 [298] 595



設備投資、減価償却費、研究開発費の推移は、上記のとおりです。

参考資料

為替影響



1円当たりの営業利益への影響額 (百万円)

	'12/3	'13/3	'14/3	'15/3	'16/3	'17/3 予想
米ドル	0	9	18	11	21	23 (プラス)
ユーロ	2	6	7	6	5	5 (プラス)

《 進行年度における為替レートの想定、1円変動による為替感応度 (連結業績影響度) 》

◇期中平均レート (円)

	2016/3実績	2017/3予想	為替感応度 ~売上高~(百万円)
米ドル	121.04	110.00	107
ユーロ	133.70	125.00	57

◇期末日レート (円)

	2016/3期末	2017/3 期末予想	為替換算 (百万円)
米ドル	112.69	112.00	40
ユーロ	127.68	128.00	0.3

当社グループでは、グループ内の海外取引に係る商流変更の実施により、為替影響を低減させる取り組みを実施しております。

進行年度の為替レートは

米ドル 110円、ユーロ 125円 としております。

- ・2015年12月末時点のホール店舗数は11,310店舗と前年より317店の減少。
- ・遊技設置台数は、パチンコが4.8万台の減少、パチスロ機の2.5万台の増加とここ数年の傾向が続いている
- ・台数規模別にみると、500台以下の店舗数が減少し、501台以上の店舗数が増加。店舗の大型化が進んでいる傾向が続いている。

遊技場関連統計

	市場規模 (億円)	参加人口 (万人)	ホール数 (店)	パチンコ設置台数 (万台)	パチスロ設置台数 (万台)	合計 (万台)	1店舗あたり平均 遊技設置台数 (台)
2006年度	336,420	1,660	14,674	59.4% 293	40.6% 200	493	336.5
2007年度	301,770	1,450	13,585	64.4% 295	35.6% 163	458	337.9
2008年度	288,190	1,580	12,937	68.0% 307	32.0% 144	451	349.8
2009年度	282,420	1,720	12,652	70.1% 315	29.9% 134	450	356.2
2010年度	259,830	1,670	12,479	69.5% 316	30.5% 139	455	365.0
2011年度	254,890	1,260	12,323	67.8% 310	32.2% 147	458	371.9
2012年度	256,720	1,110	12,149	66.3% 304	33.7% 154	459	378.0
2013年度	250,050	970	11,893	65.3% 300	34.7% 160	461	387.8
2014年度	245,040	1,150	11,627	64.3% 295	35.7% 164	459	395.4
2015年度	—	—	11,310	63.5% 290	36.5% 166	457	404.6

(注)・市場規模、参加人口は7月上旬に公表のため、空欄

・ホール数推移、パチンコ・パチスロ台数は年末時点の数値

・市場規模については、2014年度の発表に当たり、過去20年以上のデータが遡及修正された。

遊技場向機器事業を取り巻く経営環境に関する参考資料として、「パチンコ・パチスロ市場規模」の直近10年の推移を示しております。

2015年12月末時点のホール店舗数は、11,310店舗で前年末比317店舗減少し、20年連続の減少となりました。

遊技機の設置台数は、パチンコが290万6,021台で、前年末から、4万8,264台の減少、パチスロは166万9,280台で、前年末から、2万5,990台の増加と、パチンコが5年連続の減少、パチスロは6年連続の増加とここ数年の傾向に変化はありません。

また、1店舗あたりの平均設置台数は404.6台となりました。台数規模別にみますと、500台以下の店舗数が減少し、501台以上の店舗数が増加と店舗の大型化が進んでいる状況が顕著になっております。

1. マカオ

2015年度のカジノ収益は前年比34.3%減の2,308.4億パタカ(約3兆4,790億円)と2年連続で前年割れとなった。単月では、一昨年6月度以降、23ヶ月連続(4月度時点)で前年同月比マイナスの状態が続いている。

売上低迷の要因については、売上の大半を稼ぎ出すVIP部門が、中国の景気減速と習近平指導部が進める反腐敗運動の影響を受けていることが挙げられている。

マカオ行政長官は、昨年末に2016年度を約2,000億パタカと予想、金融市場も同様に3年連続のマイナス成長の見通しをしている。

コタイ地区では、2016年度にはサンズが2Q、ウインが3Qに、2017年度は1QにMGM、4QにSJMが大型カジノホテルを開業の予定。

◇マカオカジノ収益推移 (上段: 億パタカ、下段: 前年(同期間)比 増減率)

[マカオ政府のカジノ監理部門: 博彩監察協調局(DICJ)]

2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	政府予想 2016年度	2016年度 1~4月累計
1,883.43	2,678.67	3,041.39	3,606.49	3,515.21	2,308.40	2,000.00	735.17
+57.8%	+42.2%	+13.5%	+18.6%	△ 2.6%	△34.3%	△13.4%	△12.4%

◇VIP売上高比率

71.5%	72.9%	69.1%	65.9%	60.3%	55.4%
-------	-------	-------	-------	-------	-------

マカオ市場の昨年の実績は、2,308億パタカと前年比で34.3%の大幅な減少となり、2年連続での前年割れとなりました。

金額ベースで見ると、2011年度実績を下回る水準にまで逆戻りになっております。

また単月で見ても、一昨年6月に5年振りにマイナスとなって以降、前年同月比でのマイナス成長が継続しております。

このような市場縮小の要因としては、中国の景気減速と政府が進める反腐敗運動の影響が大きいと考えられております。

進行年度におきましても、4ヶ月累計段階で前年同期間比12.4%の減少となっており、通年でも3年連続のマイナス成長と予想されております。

2.米国 ネバダ州

ネバダ州のゲーミング産業は、金融危機後のボトムから、売上高こそ回復傾向にあるものの、横ばい状態が続いている。

ラスベガス訪問客数も、2015年度は前年比2.9%増の4,231万人と同様に増加傾向にあるが、ネバダ州全施設合計の損益で見ると、ショー、飲食等のノンゲーミング部門を加えても赤字と厳しい状態のようである。

◇ネバダ州 カジノ売上高推移 (百万\$, 『US Gaming Research Reports』より)

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
11,649	12,622	12,849	11,599	10,392	10,404	10,700	10,860	11,142	11,018	11,114
										+0.9%

3.フィリピン

フィリピンの2015年度のカジノ売上高は、約3.1千億円とマカオ、シンガポールが減少しているなかで前年比13%増となった。この要因としては、他地域に比べて、内国人、他の国々からの訪問者のバランスが良く、中国人の比率も高くないことが挙げられている。現在、マニラ湾の一部約100haを埋め立てて4つのIRをつくるカジノプロジェクトが進行中であり、既に2ヶ所(2013/3,2015/2)が開業し、残り2ヶ所は今年の12月と2018年頃に開業の予定。4ヶ所が完成すれば、シンガポールを抜く規模になると想定されている。

ネバダ州のカジノ売上高の推移を示しておりますが、08/9の金融危機後のボトムからは回復傾向にはありますが、ここ数年は横ばい傾向が続いております。

一方、フィリピンの2015年度のカジノ売上高は、マカオやシンガポールといった市場が減少しているなかで、大型カジノの新規オープン効果もあり、前年比13%の増加となりました。

現在進行中の国家的カジノプロジェクトでは、既に2ヶ所がオープンし、今年の12月には日本のユニバーサルエンターテイメント社のカジノが、そして18年に4つめのカジノがオープンを予定しており、全てが完成すれば、シンガポールを抜いて、アジア2位の市場になるといわれております。

【政府】

4月21日に各紙は、今国会でのIR推進法案の成立を見送る方針を固めたと報じた。IR推進法案に関しては、7月の参院選を控えて、連立を組む公明党内に慎重論が根強い事もあり、今国会での審議は見送られるだろうということは年初より想定はされていた。

【自治体】**・大阪**

昨年11月のダブル選の圧勝を受けて、府市ともにIR立地に関する調査検討を実施する方針。2016年度予算において、IR誘致に向けた調査費用として、府、市がそれぞれ予算を計上。経済界においても、関西経済同友会が『関西IRの経済効果の試算について』を発表(3/2)。そのなかで、IRの整備は急務であり、より具体的・現実的なプランを策定する必要性を訴えている。

国内カジノに関する情報をまとめております。

政府・与党は、今通常国会において、7月に予定されている参議院選挙への影響等を懸念し、「IR推進法案」の成立を見送り、臨時国会以降に先送りすることといたしました。



日本金銭機械株式会社 (日本語)

<http://www.jcm-hq.co.jp>

JCM Global(English)

<http://jcmglobal.com/>

過去の決算説明会資料は、ホームページ(日本語)でもご覧いただけます。

「株主・投資家の皆さまへ」⇒「IRイベント」⇒「IR説明会」

お問合せ先 : 経営企画部 広報・IRグループ 仲谷 06-6703-8400(代)

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわないようお願いいたします。